#### 1 学校教育目標

ン小中一貫教育目標 ・・・・・・ ン東中学校教育目標 ・・・・・・ つチャリンジ目標 ・・・・・・

○中・長期目標

「ふるさとを愛し、ふるさとの人々からも愛される子どもたち」の育成 ○のざす子ども像 ・・・・・・ ①自分をつくる子 ②仲間をつくる子 ③未来をつくる子 仲間ととは、知・徳・体のハーモニーを奏で、豚々未来に向けて赤み続ける生徒の育成 ①立ち止まって挟持 でんを開う。 ②感謝清解でんを据う。 ③美人(思いやりのある言葉 で心を伝え合おう ①自己指導能力を身に付けさせることによって、将来、自己実現を図ることのできる(自立した)生徒を育成する。 ②「生後、及び、教職員が自信を決けらあるれ、つながり日本一の学校づくりを推進する。また、生徒・保護者・地域住民が「行きたくなる」・「行かせたくなる」・学校をめざす。 ③市内外に読れる小中一貫教育校(施設一体型、分離型の共用)として自立する。



# 2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

# 3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

【生活目標(チャレンジ目標)】

スローガン: 喜びを与えよう 今日出逢う人々に

□ 立ち止まって あいさつ で、心を開こう! □ 感謝 清掃 で、心を磨こう! □ 美しく思いやりのある 言葉 で、心を伝え合おう!

- 自	己評価	ı					5 学校関係者評価	_
価域	重点目標	具体的方策 (教育活動)	評 価 基 準(ポイントは4点満点)	取組状況および成果・課題 【ポイント】は関連質問	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの 意見・要望等	1
<b>教育果涅</b>	と授業力向上	① 研究授業に係る研修会を 実施し、指導主事などを講師に 招聘、指導主事などを講師に ② ワークショップ型の研修会 に努める。 ③ 学力向・提進リーダーを活 用し、授業改善を意識した授業 を展開する。(「授業力・学力向 上デー」)	4 十均計画パリンド 0.0以上 0.0大	① 開校に向けた協議が中心となり、また、コロナ禍でもあり、4 つの小中合同での侵棄研究会は十分にできなかった。 ② 開校に向けた準備などに係る研修会がほとんどで、授棄研 究を中心とした全体での研修会はできなかったが、後半、公開 授業を行い、相互参観を行った。また、小中別に一人、授業を、 中学校から小学校への乗り入れ授業を充実させた。 ③ 推進リーダー来校日には、ミニ研修会として、他の教員の参 観を奨励し、協議を行った。 【ポイント】 3.4 3.2 2.9 3.3 3.3	3	学校評価結果(教職員)によると、授業改善意識は高いが、実践には十分につながっていない。特に、コロナ幅にも影響され、生体的・対話的で深い学びについては、引き続き課題である。次年度からのGIGAスクール構想にも対応したい、 授業評価(生徒)によると、、教員の授業に対する影価は高く、めあて・話し合い、振り返りの意識が浸透している。教科問・個人間では若干の差がある。	○ 快楽に対する評価が高いことはとてもよいことだ。コロナ領で難しいと思うが、試合合い活動などを取り入れて楽しい将業をとてましい等。 ○ 対金の授業をどの学年も楽したることはないことだ。日本や世界の社会の情勢にも興味を示してほしい。 ◆ GIGAスタールでタブレット 郷末が一人1台与えられるが、有効に活用して、学力の向上	
・学習指導へI	家庭学習の充実	① 家庭での学習習慣の確立 のため、自主学習ノートを提出 させる。質の向上を図るための 個別指導を大実させる。 ② 家庭学習の充実のための 働きかけを、手引きに基づいて 密集する。 ③ 適切な週末課題を与える。	学校評価アンケート(生徒・保護者・教職員)、及び、 授業評価アンケート(生徒)における関連質問 4 平均評価ボイント 3.6以上 3 平均評価ボイント 3.2以上 3.6未満 2 平均評価ボイント 2.5以上 3.2未満 1 平均評価ボイント 2.5未満	① 自主学習ノーは各学年で実施をれ、生徒の家庭学習予集の一覧を担っているしかし、その取組には個人差があり、指すを要した。中には、充実したノートを掲示するなどの工夫も見られた。② 家庭学習の手引きは、教室掲示に加え、タイムリーに担任から啓発した。3 週末課題は、学年の状況に合わせて実施した。9年生は、セミナーを活用し、家庭学習の外表を図った。(ボイント) 2.9 2.6 3.0	2	学校評価結果(生徒)によると、2時間以上の学習 時間が1996、学年想定時間~2時間が1996であ る。学年で大きな差があり、学年想定時間未満の生 徒は、1年で63%、2年で54%、3年で32%であっ か。学校からの学習習慣の定着が求められる。一 が、授業を通して学習意欲の喚起と適切な課題を与 えることも必要である。	「一つない」 ●個別学習を充実させて、家庭でもより変数をもって勉強するようになることを願っている。 家庭学習の時間が、生徒も 保護者も同様に厳しい評価といっている。 なっている。スマホの使いである。 する必要がある。 ○保護者による評価で、「学力 向上」について学校に期待して	
IV 	喜びを実感できる授	① 岩国市授業スタンダードの 徹底 ② 補充ブリントの工夫・充実 ③ 少人数指導の工夫(数学 科)	学校評価アンケート(生徒・保護者・教職員)、及び、 授業評価アンケート(生徒)における関連質問 4 平均評価ポイント 3.6以上 3.6未満 2 平均評価ポイント 2.5以上 3.2未満 1 平均評価ポイント 2.5以上 3.2未満 1 平均評価ポイント 2.5未満	<ul> <li>① めあて・話し合い活動・振り返りの流れを意識した授業を実践し、概ねよい評価であったが、コロナ禍、十分に話し合い活動ができなかった。</li> <li>② 各教科とも、補充プリントやワークシートを活用し、理解を深めさせていた。</li> <li>③ 数学科の少人数指導は、完全習熟度別で行い、個に応じた課題を行うことで、成果をあげた。</li> <li>「ボイント」3.4 2.9 3.2 3.4</li> </ul>	3	授業内容の理解度はあるものの、定着しない傾向 がある。復習としての家庭学習の充実が求められ る。 授業評価結果(生徒)によると、授業内容の理解 度の平均は74%である。また、力がついたことの実 感度の平均も80%を超える。とはいえ、各種テスト の経果には素れていない。 なお、生徒は落ち着いて授業に臨んでいる。	いるが高いことから、学校も頑 張ってほしい。 〇学校連営協議会委員もこま めに学校に足を連んで、生徒 めに学校に足を連んで、生徒 思う。	
		① 生徒指導部会を隔週で開催し、情報を共有するとともに、指導の方向性を確認する。② 生活アンケーなどを毎週 実施し、問題の未然防止及び 早期発見・対応に努める。③ 「ま・ほっうの言葉を常に意識した指導・支援を行う。	学校評価アンケート(生徒・保護者・教職員)、及 び、 授業評価アンケート(生徒)における関連質問 4 平均評価ポイント 3.6以上 3 平均評価ポイント 3.2以上 3.6未満 2 平均評価ポイント 2.5以上 3.2未満 1 平均評価ポイント 2.5未満	① 原書で各部会を開催し、学年生徒指導間で共有され、早期対応・早期解決につながった。 ② 生活アンケートによる情報を得て、すぐに対応したことで早期解決につながった。しかし、アンケートがマンネリ化しないような工夫が求められる。また、日々の声かけも継続する必要がある。 ③「ま・ほ・う」の言葉は、教員間に浸透しつつあるものと思われる。生徒との良好な人間関係が見られる。 1ボイント)3、8 3、3 3、4 3.8	4	学校評価結果(生徒・保護者)によると、教員の指 場所と対する評価は極めて高い。 同間違った行動をきちんと指導してくれる」・「能力 や努力を公平に評価してくれる」・「化力 ブルにすぐに対応してくれる」・「いどめなどのトラ ブルにすぐに対応してくれる」・「囲ったことや悩みに 丁寧に相談にのってくれる」の肯定評価が昨年同様 に、90%を超える。	〇生徒、保護者ともに、先 生の指導に対する評価だ 高いことはすばらしいこと だ。良好な関係が築かれて いる証拠だと思う。 〇コロナ福にもかかわら ず、様々な行事や活動がで きて、成功したことはすばら しい。体育祭や文化祭など かまたまと	
生徒指導(Ⅱ・Ⅲ)	特別支援教育の視点に立った生徒指導	① 教育相談部会を隔適で開催し、個々の生徒の状況を共 有し、支援にあたる。 ② 外部機関との連携を密にする。 (2 外部機関との連携を密にする。 (教育支援教室、ごとも支 提課、別連相談所等) の 特別支援計画に基づき、 会のの支援計画に基づき、 もの組かかな支援を心が付る。 ⑤ 部活動の削減計画に着手 する。	学校評価アンケート(生徒・保護者・教職員)、及 び、 授業評価アンケート(生徒)における関連質問 4 平均評価ポイント 3.6以上 3 平均評価ポイント 3.2以上 3.6未満 2 平均評価ポイント 2.5以上 3.2未満 1 平均評価ポイント 2.5 未満	(1) 定期的な部金の開催ができなかったが、情報は学年教育相 該により共有され、SCや児相、支援教堂等との遺携は密にされ ていた。情報の蓄積が実題である。 ②)主に、SCを活用した課題解決が充実し、来校日には担当者 との綿密な情報共有に襲題解決が充実し、実期的な面談などで見 守った。小学校所属の地域コーディネーターからの支援が得ら れた。 ③ 復伝研修として、特別支援教育への理解を図った。 ④ 支援員を活用し、個にない上海、支援を行った。 (5) 部活動希望アンケートを2度実施し、状災把握を行った。 1. ボイント)3、7、3、4、3、6	4	学校評価(教職員)によると、「教育相談体制」に 対する肯定評価に90%を超える。細やかな連絡体 制、専門家へのつなぎなと動きを作り出していること が要因であろう。また、「ま・ほ・う」の言葉を意識した 指導については、21人中20人が肯定評価である。	で、生徒の生き生きとした 活動が見られた。 ●不意校生徒は多いこと が採題である。家庭に受め が見知である。家庭に受め 関しい。関係機関としっか り連携してほしい。 ●部活動の状況が心配で ある。部員数の減少で、これ れからの数年がかなり困じ になることがよくわかった。 協力できることはしていき たい。	
	生徒会活動の活性化	① 生徒会スローガンの具現化 ② 各委員会の活動を活性化 させる。 「あいさつ運動」「感謝清 掃」「読書容発」「校内放送」 「校内環境整備」「残食調査、 総食指導」「服装点検」等の 活動を各専門委員会が充実さ	学校評価アンケート(生徒・保護者・教職員)、及び、 授業評価アンケート(生徒)における関連質問 4 平均評価ポイント 3.6以上 3 平均評価ポイント 3.2以上 3.6未満 2 平均評価ポイント 2.5以上 3.2未満 1 平均評価ポイント 2.5以上 3.2未満	① 様々な活動を通して、生徒全員で取り組む雰囲気ができて いる。生徒会の自主的な企画・運営が目立った。 各行事おいて、スローガンを意識した活動ができていた。 ② 委員会活動の取組には若干差がある。執行部に頼らない独 自の企画・実践が増えるとよい。 【ポイント】3.5 3.1 3.2	3	学校評価(生徒)によると、「あいさつ」・「清橋」・「思いやり言葉」の目標の肯定評価はすべて90%を超えている。 生徒会活動に対する評価は高いが、執行部と委員会との業務分担や委員会の活性化、生徒会規約づくりなど、野別担なり、しかし、コロナ禍にもかかわらず、充実した活動を行ってくれた。		
家庭・地域社会に	コミュニティ・スクー ルと地域協育ネット の深化・充実	19 学校運営協議会を年6回 開催するとともに、その内容を 充実させる。 2) ふるさと要ネット協議会を 年4回開催するとともに、その 大家を増加させる。 3) 学校支援・地域資献活動を 充実をせる。 4) 学校を開助・物権圏との交流を 推進する。	学校評価アンケート(生徒・保護者・教職員)、及び、 授業評価アンケート(生徒)における関連質問 4 平均評価ポイント 3.6以上 3.6以上 3.7	① 年間6回開催し、その都度、現状報告と課題に対する指導・助言をいただいた。学校評価について協議する際は、時間をかけてじる以を行うた。 ② ふるさと要ネット協議会も兼ねて開催したが、コロナ禄、例年通りの活動ができなかった。生徒のボランティア参加回数も少なかった。 ③ 4都会にバランスよく活動が計画されていなく、また、通年での活動も多く、充実度は低い。学校支援活動が少なく、大きな課題である。 ④ 幼稚園とは保育実習で交流が図られたが、機会は少ない。 【ポイント】 2.3 3.3 3.3		学校評価(生徒)によると、地域貢献活の参加への肯定評価は、活動はが再開した後期で46多かへの高速の貢献活動は、お助なつ運動やドクリーンアップ作戦」などがあるが、イベント系の活動は、地域行事への支援にとどまっている。学校からの積極的な貢献活動は少ない。一方、学校評価(保護者)によると、「子どもは地域の行事や活動に積極的に参加している」について、肯定評価が約55%と、あまり高ない。学校支援を含めて今後充実させたい。	○「住んでいるふるさとが 好きだ」という生徒が多いこと はとても嬉しい、地域とし ても様々な行事とを行い、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
との連携(Ⅴ)		<ul> <li>① 5つのつながりを意識して、東中学校区小中一貫軟育を構築する。</li> <li>② 小中一貫軟育の研修会を3</li> <li>③ 9カ年のカリキュラムを完成、試行、修正する。</li> <li>④ 小中間の相互支援活動、交流活動を不実させる。</li> <li>⑤ 東小・中学校をスムーズに開校させる。</li> </ul>	学校評価アンケート(生徒・保護者・教職員)、及 び、 授業評価アンケート(生徒)における関連質問 4 平均評価ポイント 3.6以上 3 平均評価ポイント 2.2以上 3.6未満 2 平均評価ポイント 2.5以上 3.2未満 1 平均評価ポイント 2.5 以上	① 5つのつながりは確実に構築されたが、今後は、実践・修正 を加えていく。。② 小中一貫教育研修会は2回開催され、4校の教職員が進捗 状況を共有する機会となっつた。研究発表会も好評であった。 ③ 9月年のリオニラムは完成し、実践・修正に入っている。 ④ 9月に新校舎が完成し、小中一貫教育は新たなステージに 入った。4校による相互支援活動・交流活動は定期的に行われ ている。 【ボイント】3.2 3.2 3.2	_	学校評価(教職員)によると、小中一貫教育について、「ねらいを理解している」・「めさす子ども像に向けて取り組んでいるの向党評価は80%を超えるが、・「9カ年のカリキュラムを意識して実践している」について、肯定評価は66%に止まり、不十分な面がある。 小中の交流活動は、コロナ禍ではあったが、充実してきている。(音楽交流・給食交流・合同始東式など)	〇小中一貫教育校として開校し、様々な交流活動が行われていることはすばらしい。ぜひ、見に行きたい。 〇小中一貫教育の目標や使など、生徒や保護者への啓発が進み、徐々に浸透している。	
人材育成・業務改善(Ⅳ・Ⅵ)	人材育成 OJT、Off-JTの 推進	① 校内研修会を毎月開催する。(授業・一般) ② 校外研修の復伝を推奨する。 ③ 校内綱紀保持研修を各担 当者がマネジメントする。	一人1授業、校内研修(授業、一般)、各種校外研 修の復任回数の合計(教職員) 4 合計40回以上 3 合計30回以上 2 合計20回以上 1 合計10回未満	① 一人. 刊票車は確実に開催できたが、発票に係る校内補係はできなかた。 次年底は、合同での原業研究会などを助り入れたい、② 校外 千様の 復伝は、すべての研修会とはいえないが、行われた。② 銀配保料に係る研修会に付いては行えなかったが、職員朝礼や職員会議の中で、指導・注意機配などを行った。 復伝:4	3	一人1授業は計画的に順調に進み、複数の教員 が見合い、推進リーダーの指導・助言を受けなが、 ら、研修を深めることができた。 次年度は、教職員の他分野での資質向上を図る ためにも、小中一員教育以外の研修や授業研究を 充実させたい。	○働きやすい職場という教職員の評価はすばらしい。 無理をしないように頑張ってほしい。 〇コロナ禍であっても、いろ いるな研修が行われている ことはよい。特に、小中一 責教育が進んでいることが	
	働き方改革に向け	① 職員会議を勤務時間内に 終えるため、企画委員会を充実 させる。 ② 校務分享を複数担当制に し、個々の負担を軽減する。 ③ 部活動車用規定を遵守し、 効率的た運営につなげる。 ④ 学校、及び、育友会行事を 精選する。	時間外業務時間数の平均(教職員) 4 昨年度比90%未満 3 昨年度比90%以上95%未満 2 昨年度比95%以上100%未満 1 昨年度比100%以上 学校評価(教職員)における関連質問 - 年休の取りやすさ、部活動規定遵守、働きやすい職 場	① 職員会議はほとんど勤務時間内に終えることができた。運 営場え全体には時間を要した。かし、小学校との協議が 増え、全体とし時間を要した。 ② 複数担当制にしても、やはり、一人の教員に頼ってしまう傾 向があった。個々の事情もあり、業務量の均一化は困難であ る。 ③ 部活動の休養日規定は確実に遵守されている。コロナ禍、 大会などの中止があり、教員にゆとりができた。 【時間数】昨年度比 一5% 【ポイント】3、0 3、2 3、5	3	部活動規定の遵守により業務量が減少傾向にある。しかし、通常業務は一向に減ったおきず、むし、創意工夫を加えたよりよいものをめざす傾向が見られ、全体として十分に減少できていない。業務時間記録では、1月までの平均時間は、65時間で、昨年度比一5時間となっている。学校運営の質、教育課程の質、教職員の資質を下げずに業務改善に取り組むことの困難さを感じている。	長外月が返んでいっこか。 よくわかった。また、網和は 持研修は引き続き行ってほ しい。 ●教職員の勤務時間オー バーが心配である。効率よ く進めてほしい。	

### 学校評価総括(取組の成果と課題)